

「裏磐梯紀行(8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

桧原湖畔探勝路では、多くの植物や野鳥ともに、1888年(明治21年)の磐梯山大噴火(山体崩壊)に伴う地形や岩石も見る事ができる。探勝路周辺の小さな丘や、湖の中の島は「流れ山」と呼ばれ、山体崩壊に伴う「岩なだれ」によって運ばれた、磐梯山の一部である。



このような灰色の巨岩も、道端に多く見られる。これは磐梯火山を形成する代表的な岩石の **輝石安山岩** *pyroxene andesite* の岩塊だ。これも明治の大噴火の時流れてきた、磐梯山の山体の一部だろう。



よく寄って観察すると、斑晶がよくわかる。灰色の石基の中に、安山岩の特徴である四角く白い結晶(斜長石)と、小さな黒っぽい結晶(輝石)が見える。ルーペを持参すべきだったと後悔した。



湖畔の探勝路は、限りなくおおらかで、森林浴を楽しみながら歩くことができる。流れ山を登ることもあれば、しばし湖に近い場所を歩く場所もあり、実に変化に富んでいる。



これは **マイヅルソウ** *Maianthemum dilatatum* というかわいらしい花。スズラン亜科の野草で、アラスカなどの高緯度地域や、日本の亜高山帯の針葉樹林を好む。こうした野草も、名称がわかるのとわからないのとでは、興味がまるでちがってくる。勉強が必要だ。



これは **カワラタケ** *Trametes versicolor* という木材腐朽菌。切り株や倒木に「白腐れ」を起こし、分解する。食用にはならないが、抗ガン作用があるという。